



S L I M B I F I

リニューアル

医学的根拠に基づいた
ダイエットサプリの決定版

実は病気の原因の7割は腸内環境にある

「腸内フローラ」とは何か？

腸内細菌が作りだす細菌叢のこと。
腸内にお花畑(フローラ)の
ように広がっています。



腸内細菌は善玉菌と悪玉菌、
そして日和見菌の大きく3種類に分けられます。

一般的に健康な成人は

善玉菌が20%、悪玉菌が10%、日和見菌が70%
程度とされます。

実は世の中に存在する

**70%以上の病気の原因が、
この腸内の状態に関係**
あるといわれています



生活習慣病はおろか、
うつ病や糖尿病、さらには癌に至るまで、
現代人を襲うほとんどと言える

多くの病気に深く関係していることが
研究により分かってきました。

腸内細菌の種類と働き

善玉菌

ビフィズス菌
乳酸菌など

20%

整腸作用・消化促進促進
(ビタミン・有機酸の生成)

悪玉菌

ウェルシュ菌・
黄色ブドウ球菌など

腸内腐敗
(有害物質の生成)

10%

中間菌 (日和見菌)

バクテロイデス菌
非病原性大腸菌など

消化吸収促進
(未消化物の分解)

70%

腸内で起こる炎症が大問題

加齢

ストレス

偏食

悪玉菌が増加する

消化不良等が起こり腸内の毒素が増加

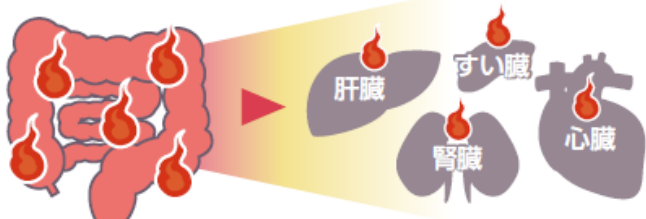
腸壁が傷ついてしまう (=炎症状態)

傷ついた腸壁から**毒素**が血液に流出

全身で**慢性炎症**に

腸で炎症が起こると… 炎症は全身のさまざまな臓器に飛び火

腸から始まる慢性炎症のしくみ



本来、栄養を吸収するはずの腸が毒素を吸収し、体中にまき散らかし、全身のさまざまな箇所に**悪影響**を及ぼしていきます。

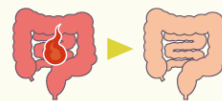
慢性炎症とは??

急性炎症

外からの菌やウイルスなどによって起こる免疫機能が一時的に弱くなる状態。

— 症状 —

急な症状で、のどやリンゴ節が腫れる。熱が出る。



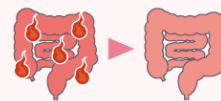
炎症がおさまると元の体に戻ろうとする

慢性炎症

腸内で増えた毒素などによって起こる持続的な弱い炎症。

— 症状 —

自覚症状はほとんどないが、持続することで、やがてその臓器は機能しなくなる。



元に戻らない

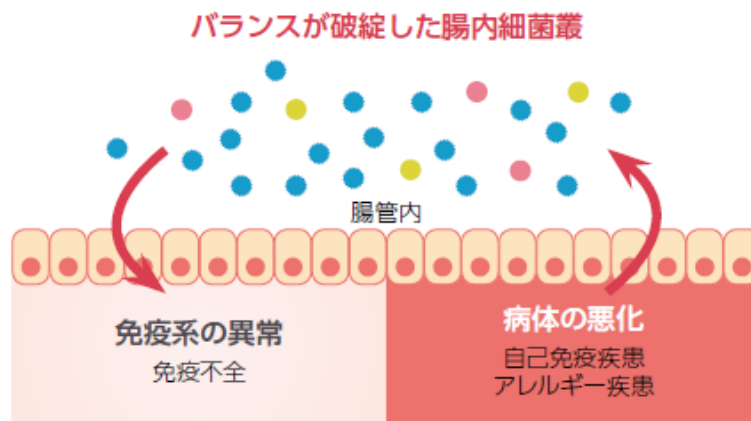
肝臓に過度な負担を引き起こし、膵臓では血糖値の恒常性維持に重要なホルモンである**インスリン**分泌に**悪影響を与える**などさまざまな病気の引き金になっていく。

あなたは決して見逃してはいけない**下痢**や**便秘**などの腸のサインを軽い不調と見過ごしてはいませんか？

花粉症や、ガンにも腸内環境が関与。

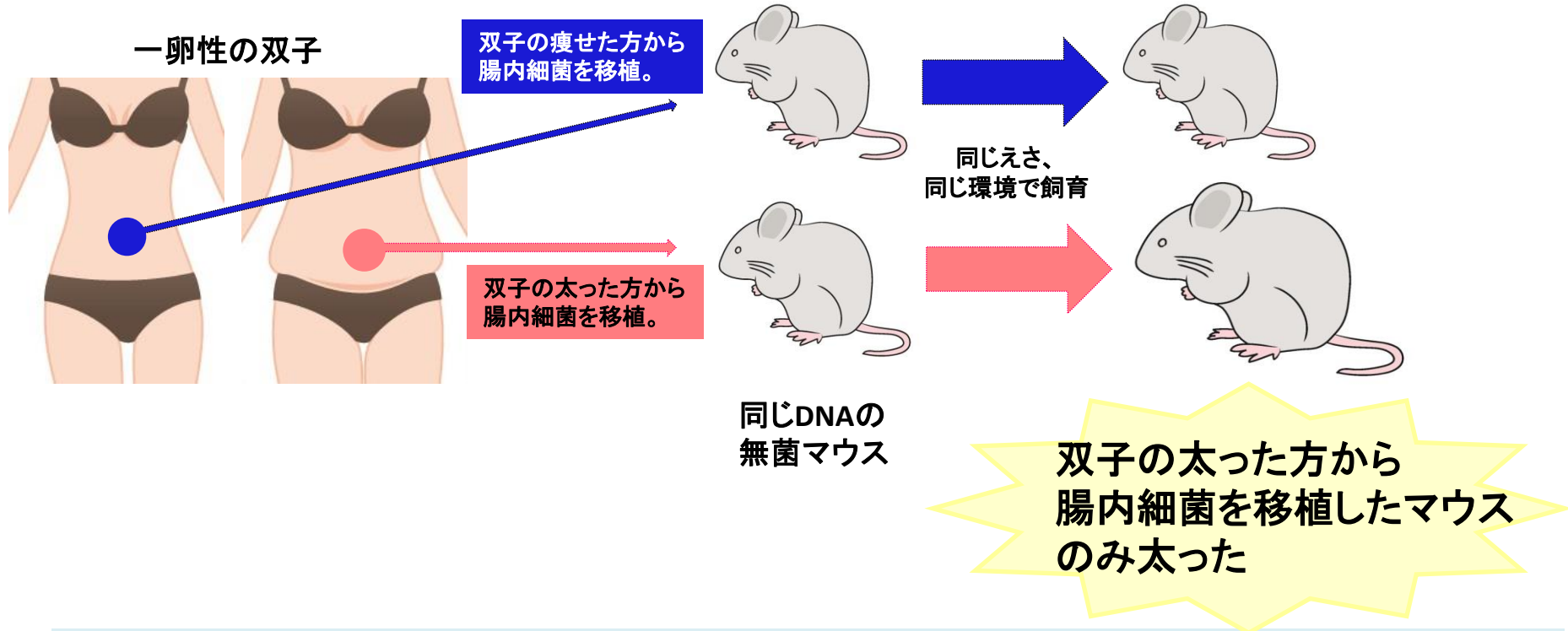
体の免疫システムの6～7割は腸に集中しており、その活動には腸内フローラが深く関係している。

腸内環境が悪化し、悪玉菌が増加することで免疫力が低下し、アレルギーの症状が増大してしまいます。



そして、“腸”はダイエットにも関係している

アメリカワシントン大学の研究結果



腸内細菌が太る原因に関与している！

■参考文献■

Science「Gut Microbiota from Twins Discordant for Obesity Modulate Metabolism in Mice」(2013年)

腸は老化しやすいといわれている臓器

血液を必要とする臓器ほど寿命が短く、
腸は臓器の中で最も血液を消費している。
つまり、**腸は最も老化しやすい臓器**です。

腎臓が**20%**、
脳でさえも**15%**
腸は**30%**以上

腸内フローラは肉の食べ過ぎや野菜不足、
運動不足、喫煙、過度の飲酒、ストレスなどの
影響を受けやすい。

実年齢とは大きくかけ離れた“**腸年齢**”に
なっている人は少なくない。
データでは、若い女性ほど実年齢と腸年齢の差が
大きくなっている。

実年齢は人の身体にとってはあまり意味がなく、本当に気にかけておきたいのは腸年齢のほう。
腸年齢を若く保つことができれば、美しさと健康を維持できる

もしかして、腸は脳よりも重要な存在!?

腸は「第二の脳」と呼ばれる重要な臓器

独自の神経ネットワークがあり、消化吸収や排便など、**脳からの指令がなくても独自判断**で活動できる。

また、腸と脳は互いが太い神経で結ばれ、密接に関係していることがわかってきました。

緊張するとお腹が痛くなるのは・・・

脳が自律神経を介して腸にストレスを伝えることによって起こるものです。（「脳腸相関」と呼ばれる）

脳→腸の指示よりも、**腸→脳**の方が圧倒的に多い

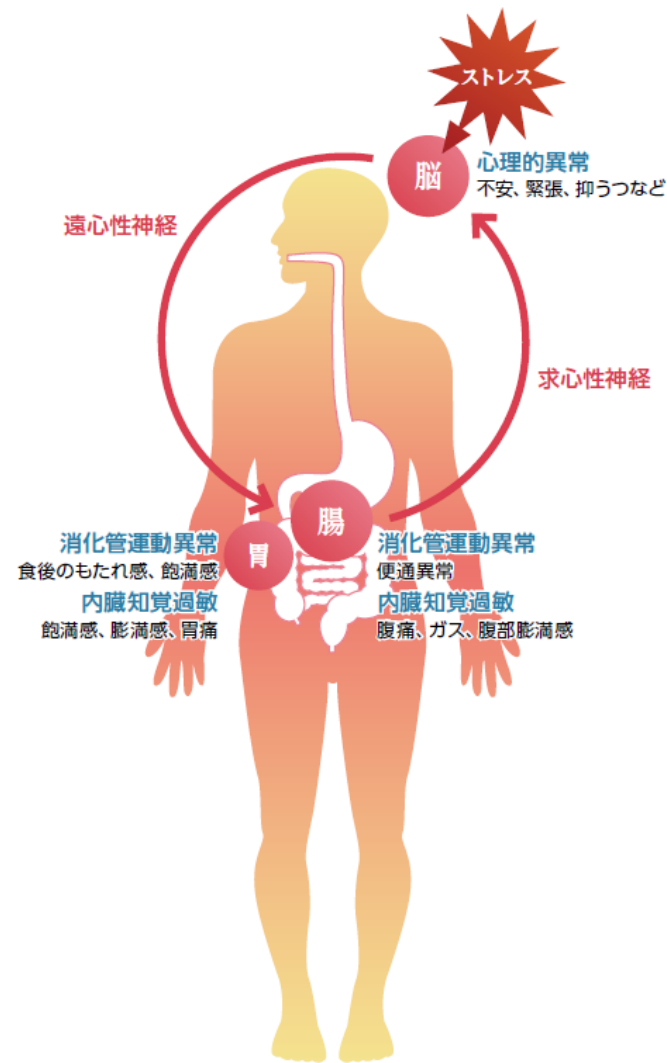
なんと、その割合は**2:8**

腸は頻繁に信号を送り、脳下垂体に対してホルモン分泌などを指示している。腸の状態は、脳の状態にも深く影響を及ぼしており、**うつ病**をはじめとした**精神疾患**との関連性も明白になってきています。腸内細菌を入れ替えたら、性格まで変わってしまったという例も。

例えば・・・**ハッピーホルモン(セロトニン)**

脳が作り出すものはほんのわずか

その**90%が腸で作られている**んです。



腸内フローラは変えられる！

腸内細菌は人の細胞よりもはるかに多い

人の細胞は約37兆、うち赤血球が28兆、
腸内フローラを形成する腸内細菌は**100兆個以上**。

腸内フローラのバランス維持の最重要ポイントは、
加齢とともに減少してしまうビフィズス菌をいかに増やすか
ということです。

人のDNAは生涯変わりません。

しかし、**腸内フローラ**は変化してしまうし、

変化をコントロールすることもできる。

そしてDNAと同じくらいに、身体に重要な影響を与えることができるんです。

つまり、

脳の指示がなくても
自身で判断を下す
臓器です！！

体内の免疫細胞の
約70%が
腸にあります！！

たくさんの**ホルモン**が
腸で作られています！
たとえば
ハッピーホルモン(セロトニン)
の95%は腸でつくられています！

体の健康の中心は
“腸”にある

だから

“腸を制する者”は“健康を制する”

そして、

腸を制するものは

ダイエットも制す



腸やせダイエットが

減量への近道！

SLIMBIFIは

医学的根拠に基づいた



ダイエットサプリの決定版！

SLIMBIFIは

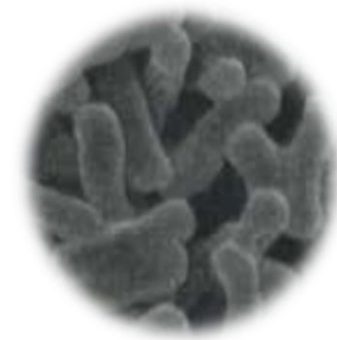
たくさん種類のある

ビフィズス菌の中から発見された

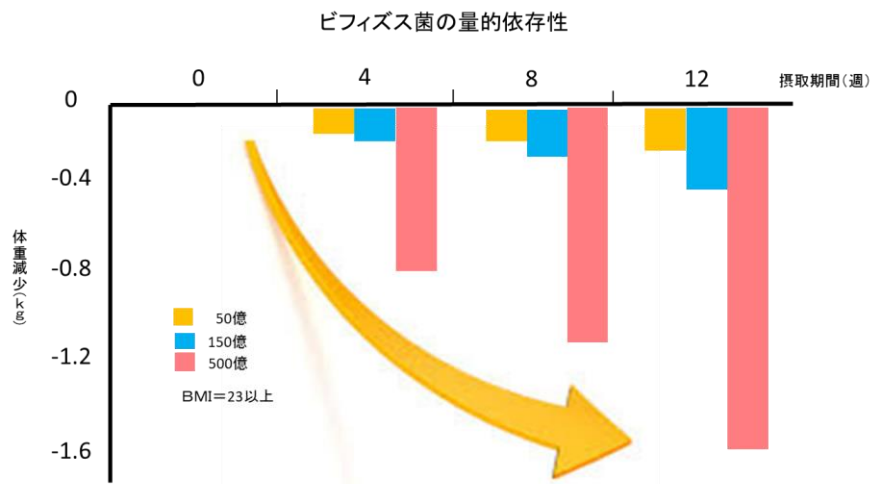
特別なビフィズス菌を配合。

このビフィズス菌を

1スティックに**500億**配合。



ビフィズス菌
20個分



<森永乳業調べ>

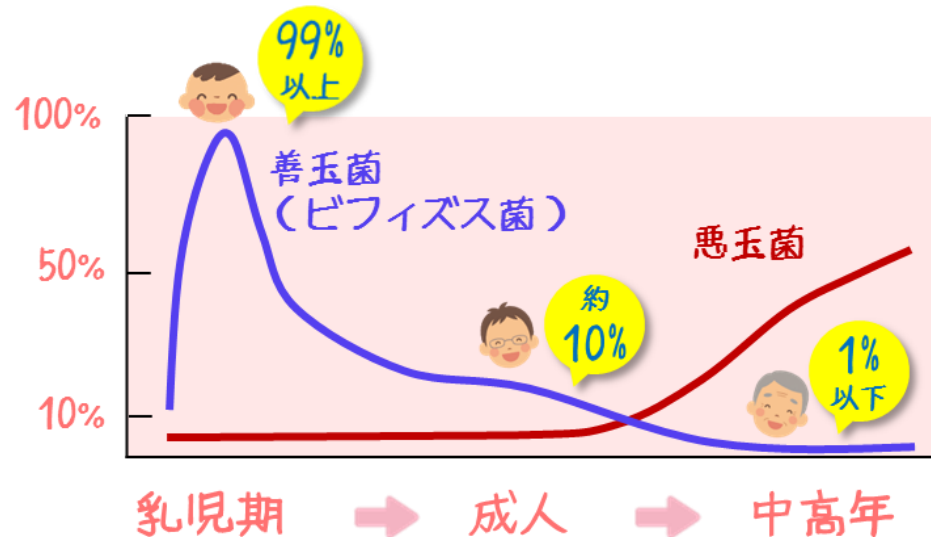


※1個 = 112g

ビフィズス菌ってなに？

◆赤ちゃんの便から発見された菌

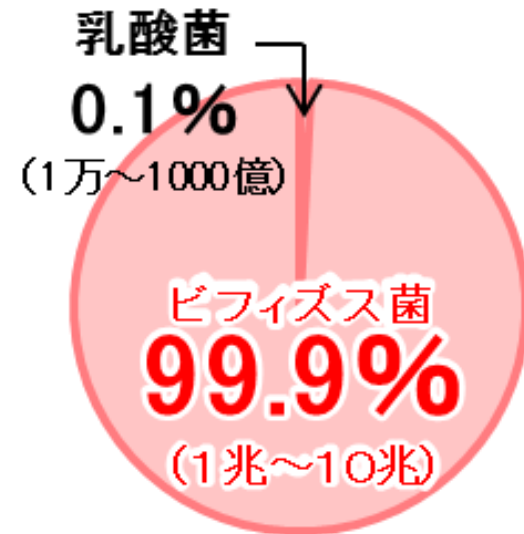
1899年、フランス・パスツール研究所の
ティシエ(Tissier)博士によって、
母乳を飲んでいる赤ちゃんの糞便から発見された。
母乳の影響で、**乳幼児の腸内細菌は
99%がビフィズス菌**で満たされている。



ビフィズス菌は**加齢によって減少**します

◆善玉菌の99%はビフィズス菌

人の腸内に棲む**善玉菌と呼ばれる菌の
99%はビフィズス菌**。
人の腸内に最も多く棲んでいる有用な菌で、
その数は乳酸菌の100~1万倍の
1~10兆個といわれている。



腸内の善玉菌

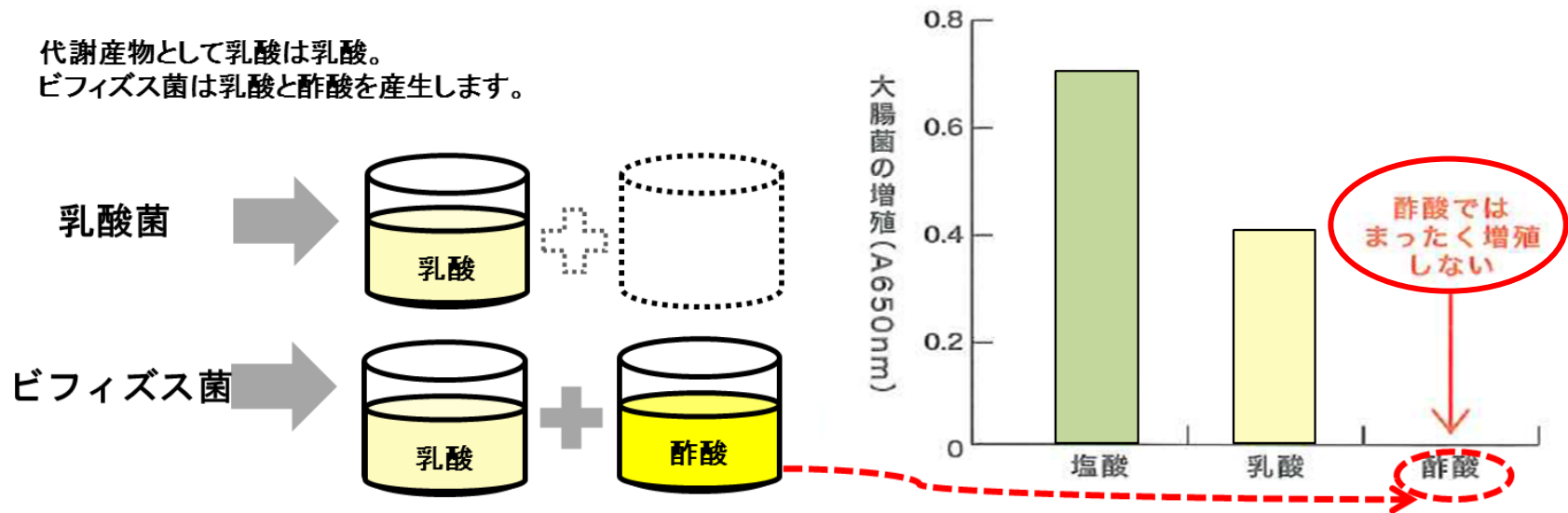
ビフィズス菌と乳酸菌は何がちがうの？

◆乳酸菌とはこんなに違う！

混同されがちな乳酸菌とビフィズス菌だが、そのDNAは「人とナマコ」ほど違う。

乳酸菌は糖を分解して乳酸を作り出すが、ビフィズス菌は乳酸以外にも**酢酸を産生**し、酢酸の強い殺菌力で悪玉菌の繁殖を抑制する。

(そのまま酢酸を飲んででも、酢酸は腸まで届かないので、直接摂取しても腸内環境に効果はない)。

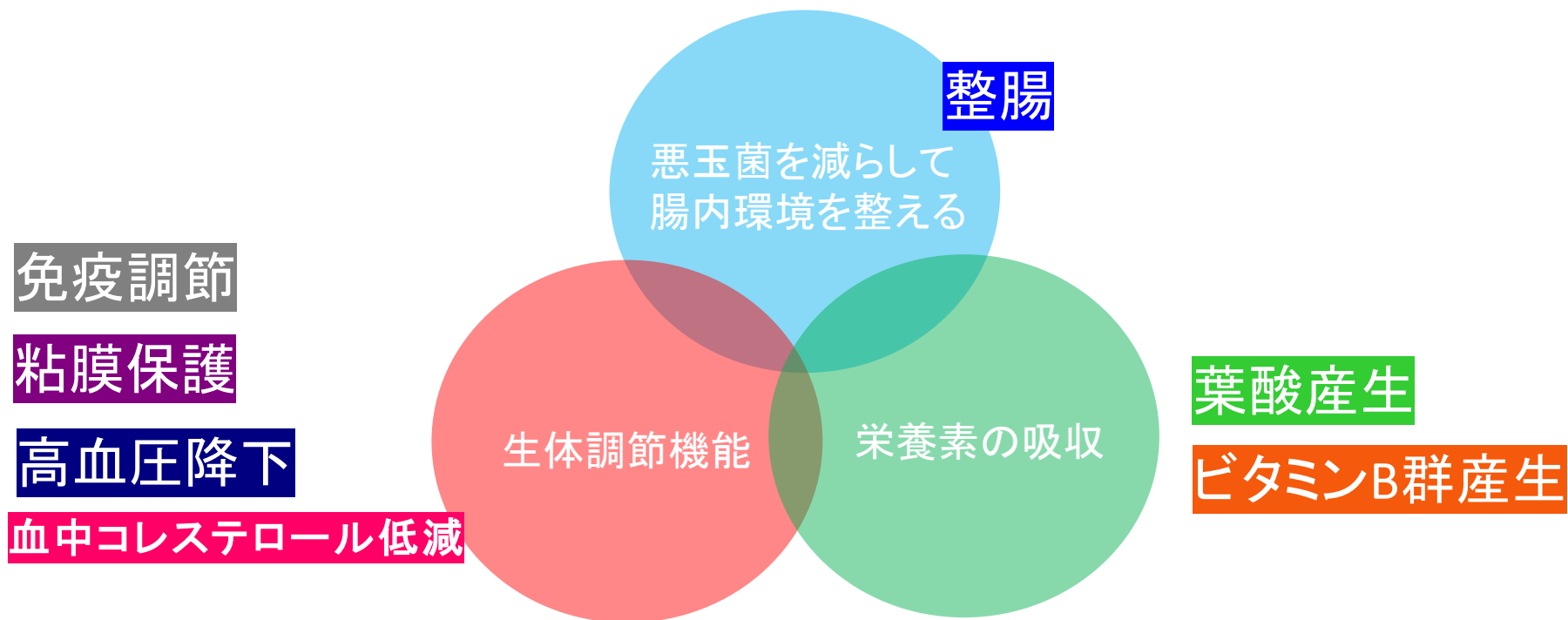


大腸で酢酸を生成する生きたビフィズス菌を増やすのが一番の近道

様々なビフィズス菌の働き

ビフィズス菌の働き

ビフィズス菌は腸内に入ると腸内環境を整えるほかにも大きくわけて「**生体調節機能**」関するものと「**栄養素の吸収**」関するものの2つの役割を担っています。



ビフィズス菌ならなんでもいいわけではない

人には人のビフィズス菌って？

ビフィズス菌とは、ビフィドバクテリウム属に分類される菌の総称で、人の腸には**10種類程度**が棲息している。**腸内フローラは個人によって大きく異なる。**

大腸は酸素が少ないため、酸素を嫌うビフィズス菌にとって快適な環境。

それぞれの菌にはそれぞれに異なる特徴があり、機能や効果も異なる。血縁のある親族の中にも頭の良い人、足の早い人、絵の上手い人、肌が白い人などの個体差があるように、ビフィズス菌もDNAの違いによってそれぞれに得意分野が違う。

総じて“善玉菌”とされるビフィズス菌ですが、形状も違えば効果も違うさまざまな菌が存在し、必ずしもすべてが健康に効果アリというわけではありません。

大切なのは、**自分の目的に合ったビフィズス菌を摂る**ということなのです。



スリムビフィに配合されている
ビフィズス菌の

最大の特徴(得意分野)は

LPS吸収防止機能

LPSとは・・・

悪玉菌が出すリポポリサッカライド(LPS)と呼ばれる物質。
LPSが肥満をどんどん進行させる。

そもそも肥満の体の中は

どんどん脂肪を溜め込む悪循環が発生中！！

腸内

悪玉菌が増殖



代謝機能が低下

悪玉菌を撃退

脂肪細胞

脂肪細胞が
肥満脂肪細胞に変化



溜め込みやすい体に

通常脂肪細胞に戻す

全身細胞

全身炎症

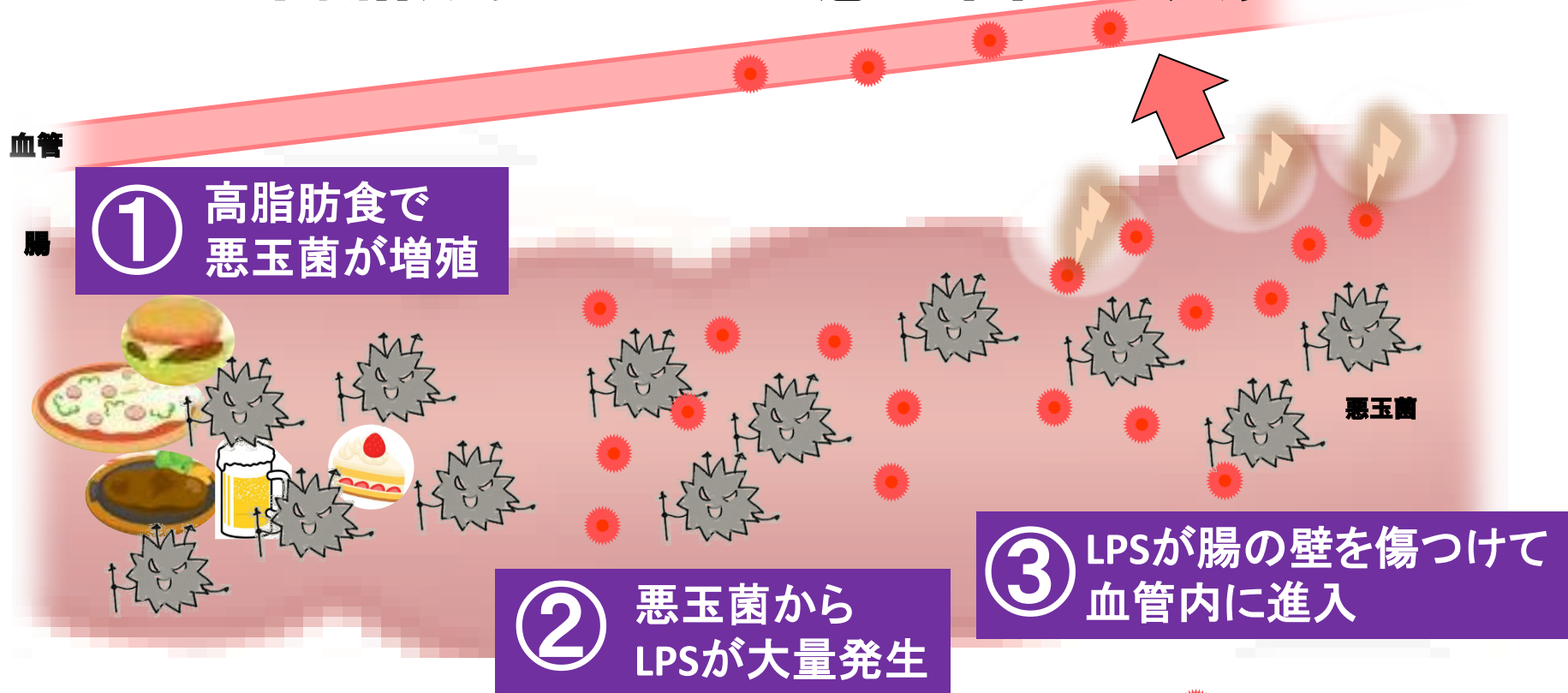


インスリン*抵抗性UP
(* 脂肪の合成促進・分解抑制に関与)

炎症物質のブロック

これらの原因にアプローチできるのが
ビフィズス菌LM株です！！

LPSは高脂肪食によって悪玉菌から大発生！！

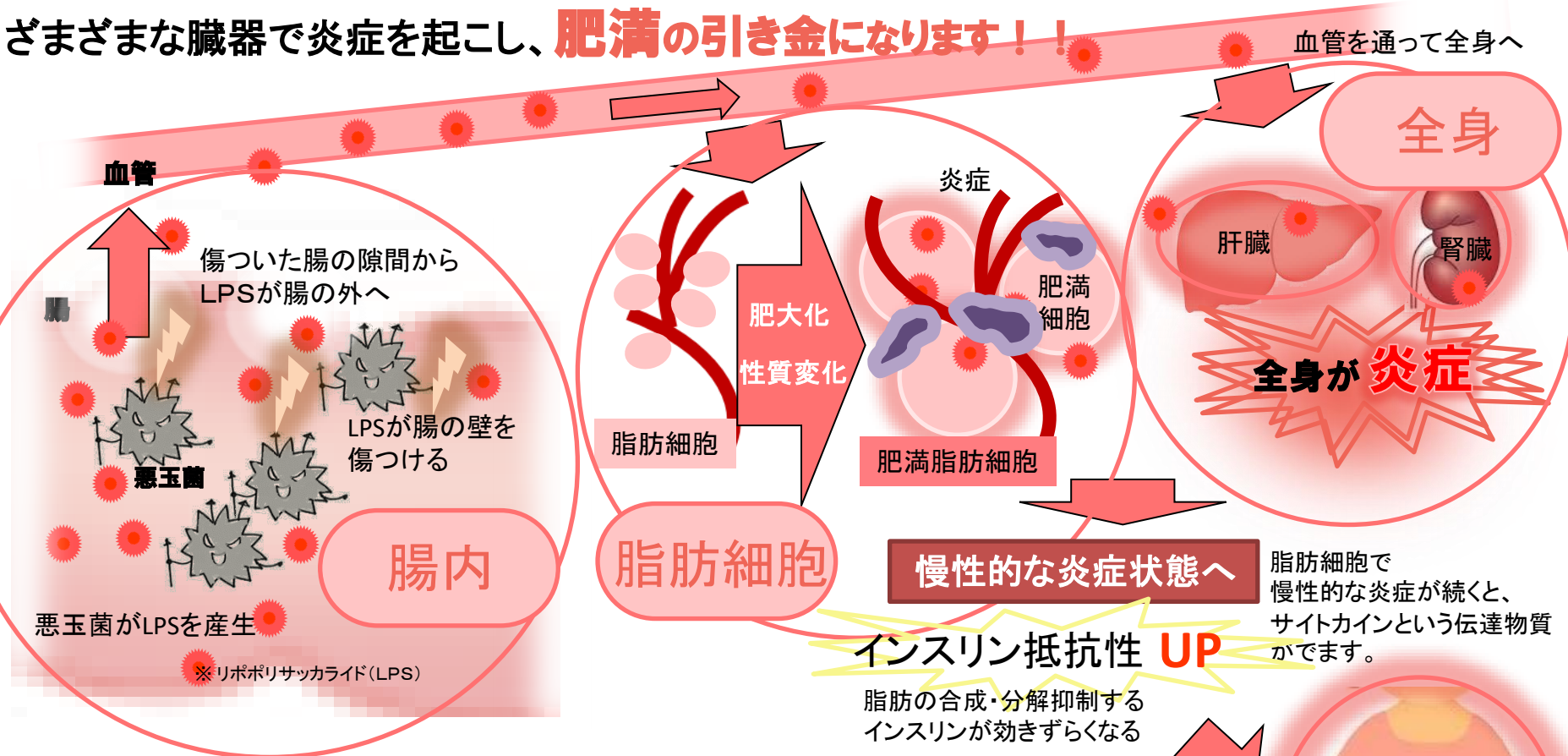


LPSは悪玉菌が産生する炎症性物質です。
脂肪分の多い食事ばかり摂取していると・・・
悪玉菌が増殖し、悪玉菌がLPSをたくさん産生します！！

LPSが腸の壁を傷つけ、傷ついた腸の壁から血管へ進出します。

LPSが全身に広がると肥満へまっしぐら！！

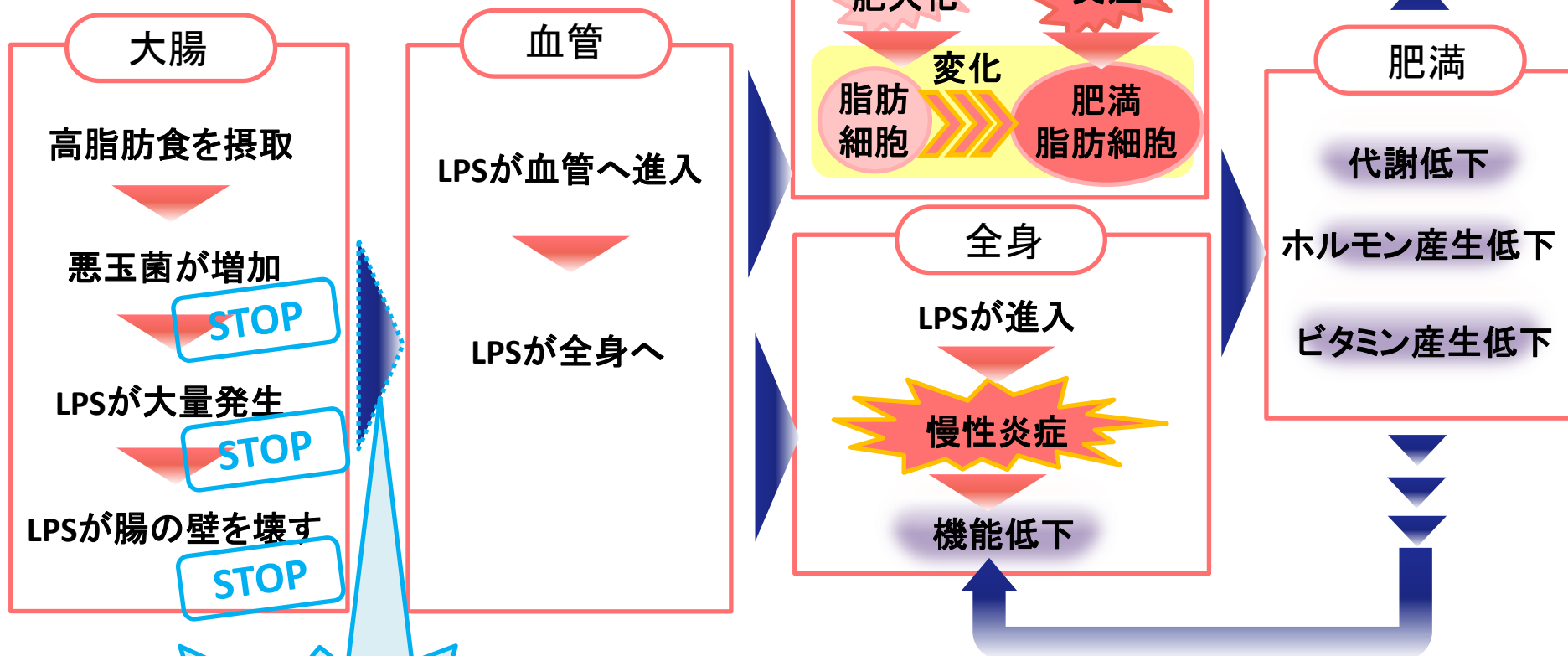
このLPSが血中に出てしまうことで、全身に運ばれ脂肪細胞や肝臓、腎臓など
さまざまな臓器で炎症を起こし、**肥満の引き金になります！！**



脂肪組織の慢性炎症を引き起こすと、
それにより全身でのインスリン抵抗性が生じます。
それが、**肥満、糖尿病の発症につながっていきます。**

つまり

こうして肥満へつながり、 悪循環が続きます！



血管への
LPSの流出をブロック

SLIMBIFIは 根本の原因を撃退！

つまり、SLIMBIFI のダイエットビフィズ菌は LPSが拡散する3つの原因をそれぞれブロック！！

① 高脂肪食で
悪玉菌が増殖

② 悪玉菌から
LPSが大量発生

③ LPSが腸壁を傷つけて
血管内に進入

① 悪玉菌を退治

② LPSをブロック

③ 腸の壁を修復

LPS吸収をブロックするから ダイエットしっかりサポート！

腸の健康は「GLP-1」「PYY」という 2種類の“痩せホルモン”に大きく関与。



糖の吸収を抑え、インスリンの分泌を促してくれます。
また、血糖値を上げるホルモンの分泌を抑制して、
血糖値の上昇を抑えてくれます。
さらに、食欲を抑えてくれます。
糖尿病や肥満の治療にも用いられています。



満腹中枢を刺激して食べ過ぎを抑えてくれます。

SLIMBIFで

“痩せホルモン”分泌量が



LPS防止機能がはたらくと

痩せホルモン が分泌されて

短期でも

結果が出やすい体に！

スリムビフィ **商品特徴のポイント**



LPS吸収防止効果＋免疫UP効果

ビフィズス菌LM株へ変更



新たに**ビタミンB6**を配合



飲みやすさを追求して改良。

SLIMBIFIは

ビフィズス菌

LPS吸収防止機能に加えて

ダイエットをする上で低下しがちな
腸内バランスと免疫も維持できる



ビフィズス菌LM株を採用。

さらに健康的に美しく痩せることができる

選り抜かれた特別なビフィズス菌 「ビフィズス菌LM株」とは？

ビフィズス菌LM株は

森永乳業  がビフィズス菌の長年の研究により、何百株ものなかから見つけ出した優れた効果があるビフィズス菌です。

ビフィズス菌LM株は **LPS吸収防止機能**をもち、さらに**免疫UP機能**をもつビフィズス菌です。

しかも、このビフィズス菌LM株は**森永乳業社提供の優れた菌のオリジナル配合**です。



ビフィズス菌LM株の3大効果

整腸効果

摂取するとビフィズス菌の割合が増えて、有害物質であるアンモニア濃度が低下が確認されました。

ダイエット効果

悪玉コレステロール、中性脂肪が減少することが確認されました。また、筋肉量を減少せずに体重減少の結果が得られました。

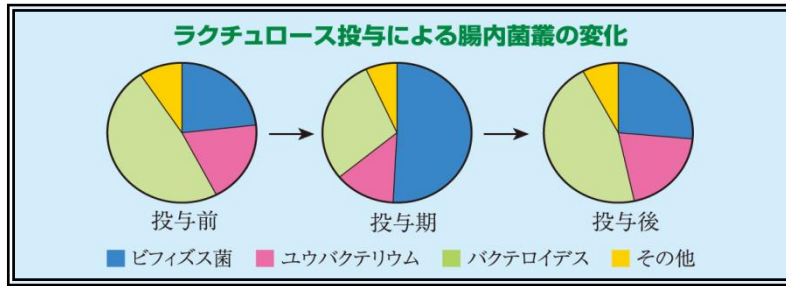
免疫力UP効果

NK活性や好中球の殺菌力が上がり、免疫の上昇が確認されました。

生きた菌を増やすプレバイオテクス ミルクオリゴ糖(ラクチュロース)配合

1) ビフィズス菌の増殖を助けます

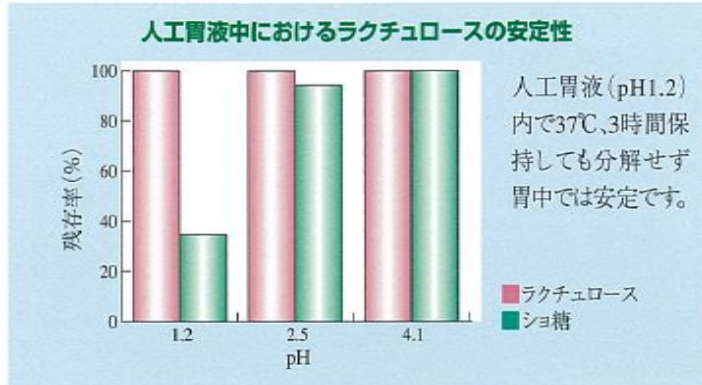
- ・0.65g/日の摂取量で、腸内ビフィズス菌増加、軟便化、おなかの調子の改善 (T.Tomoda, et al., Bifidobacteria Microflora, 10 (2), 123 (1991))
- (ラクチュロース4gを配合した飲料を健康成人8人に3週間毎日飲用させた時)



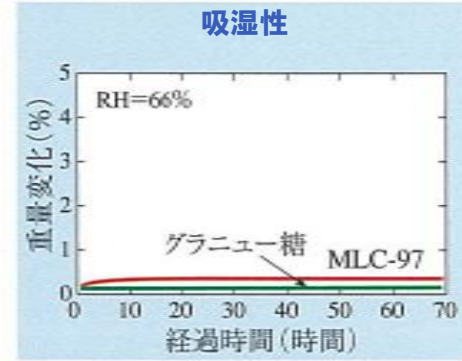
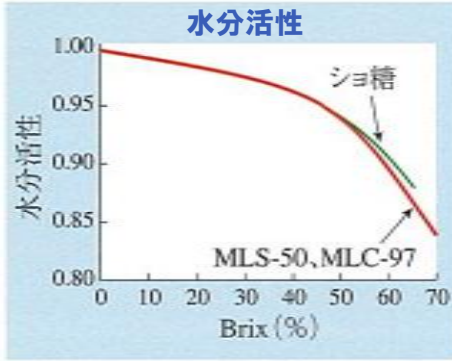
プレバイオテクスとは？
ビフィズス菌や
乳酸菌のえさになるもののこと。
食物繊維やオリゴ糖など。

さらにはからだのなかで
ビフィズス菌が増殖。


2) 胃酸に負けず、胃・小腸で吸収されず大腸まで届きます。



3) 水分活性が低く、吸湿性も低いのでビフィズス菌が苦手な水分を寄せ付けません。



さらに、
新成分として

 **ビタミンB6**をあらたに配合しました。

ビタミンB6は水溶性のビタミンB群の一種(ピリドキシン)。たんぱく質からエネルギーをつくり出す代謝の過程で必要な、約100種類の酵素の働きを助ける補酵素としての役割を担っています。

ビタミンB6の効果

ビタミンB6は体内で脂質の代謝をサポートしています。

成長を促進する効果

丈夫で健康な皮膚や粘膜、髪、歯、爪をつくることができ、成長を促進します。また、ビタミンB6は筋肉を作ったり、エネルギー源をつくるアミノ酸の代謝に不可欠な栄養素です。

ダイエット時は栄養不足になりがちで肌荒れや免疫が落ちがち
ビタミンB6と一緒に補給することで健康的なダイエットをさらにサポート。

脂肪肝を予防する効果

ビタミンB6は脂質の代謝をサポートし、肝臓への脂質の蓄積を防ぎ、脂肪肝を予防する効果があります。脂肪肝を放っておくと、脂肪肝が進行して肝硬変になり、やがて肝臓ガンにいたる危険性もあります。

脂肪肝のような内臓脂肪はなかなか落ちにくく、隠れ肥満の場合も。
ビタミンB6を摂取することで肝臓の脂肪もサイズダウン。

動脈硬化を予防する効果

ビタミンB6はビタミンB12、葉酸とともに摂取することで、動脈硬化の一因となるホモシステインを抑制する効果が報告されています。その他に、コレステロール低下効果も報告されており、動脈硬化予防に期待されています。

肥満に多いドロドロ血液。そこから動脈硬化が進行することも。
ビタミンB6はこの動脈硬化を防ぎ、気になるコレステロールも低下させます。

その他 さまざまな効果があることがわかっています。

神経機能を正常に保つ効果

アレルギー症状を緩和する効果

つわりの症状を緩和する効果

月経前症候群 (PMS) の症状を緩和する効果

さらに、  飲みやすさも追及。



2gと濃縮して飲みやすい

味は甘さをおさえってすっきりと。

より飲みやすく改良しました。

商品概要

商品名	スリムビフィ
内容量	60g(2g×30包 / 1ヶ月分)
形状	顆粒
味	ヨーグルト味
小売希望価格	20,000円(税別)
主要成分	■ビフィズス菌 LM株 ■ミルクオリゴ糖 ■ビタミンB6
原材料名	ラクチュロース(乳成分を含む)、ビフィズス菌末(澱粉、ビフィズス菌乾燥原末)、マルチデキストリン、イヌリン(食物繊維)、トレハロース、クエン酸、ビタミンB6、香料
お召し上がり方	<1日あたりの摂取量目安> 1日1スティックを目安に水などと一緒に お召し上がりください。
製造国	日本



モ二夕一結果

たった2ヶ月でこの結果

本人の希望
により顔NG



Before

体重
73.1 kg → 63.8kg **- 9.3kg**

体脂肪率
24.5% → 20.5% **- 4%**

BMI
25.6 → 22.3 **- 3.3**

ウエスト
91.5cm → 79.0cm **- 12.5cm**

下腹部
94.0cm → 80.9cm **- 13.1cm**

太もも
57.2cm → 49.8cm **- 7.4cm**

ふくらはぎ
38.3cm → 36.0cm **- 2.3cm**

本人の希望
により顔NG



After

たった2ヶ月でこの結果



体重
71.2 kg → 66.1kg **- 5.1kg**

体脂肪率
22.3% → 20.7% **- 1.6%**

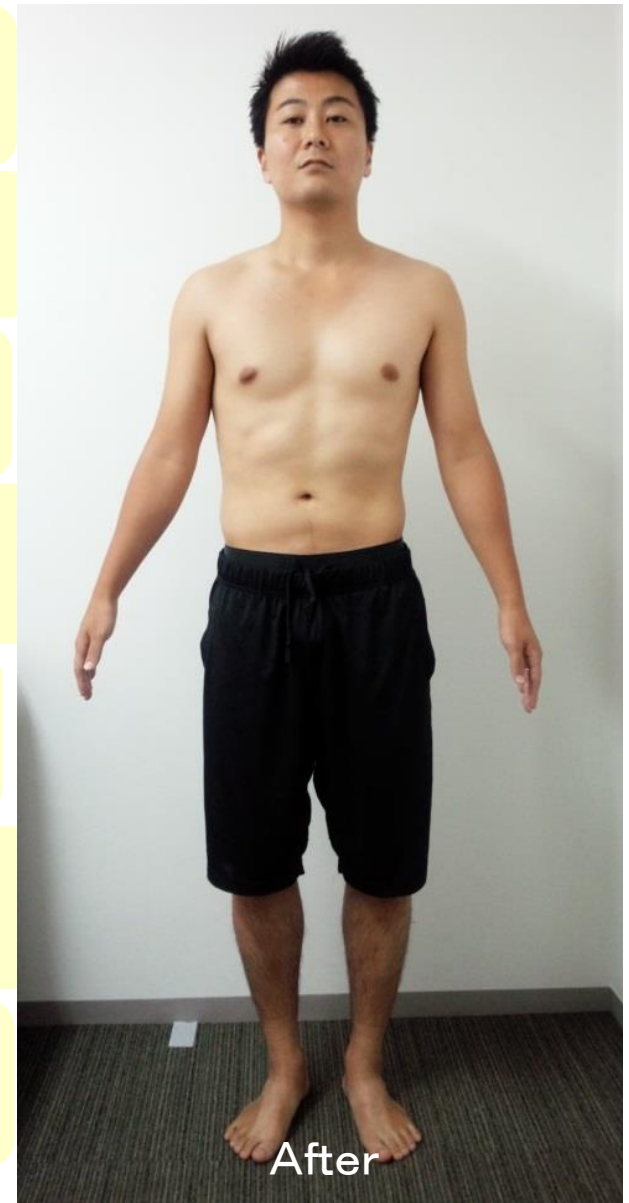
BMI
23.8 → 22.1 **- 1.7**

ウエスト
89.0cm → 81.0cm **- 8.0cm**

下腹部
89.7cm → 80.0cm **- 9.7cm**

太もも
55.0cm → 50.8cm **- 4.2cm**

ふくらはぎ
37.8cm → 36.0cm **- 1.8cm**



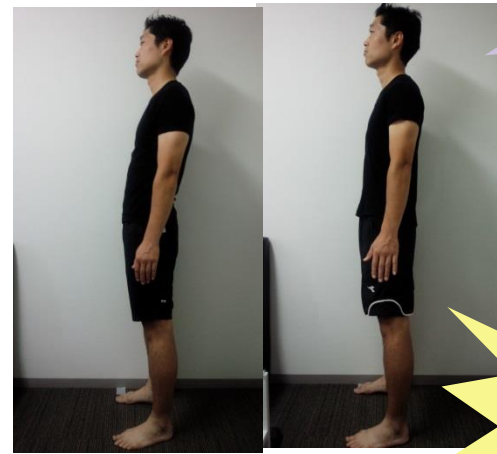
たった1ヶ月で驚きの大変身！！



体脂肪率
-4%

体重
-4kg

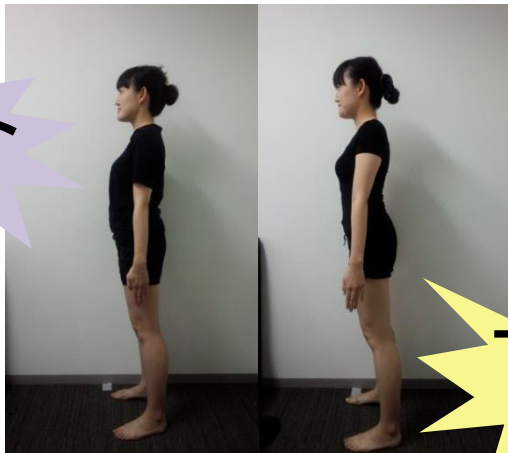
下腹部
-9cm



ウエスト
-9cm

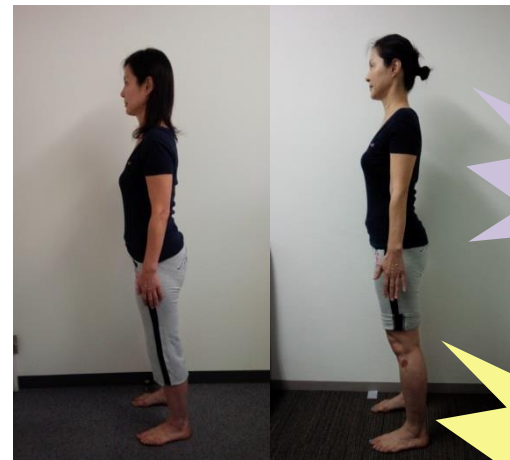
体重
-3kg

下腹部
-9cm



ウエスト
-3cm

下腹部
-3cm



ウエスト
-6cm

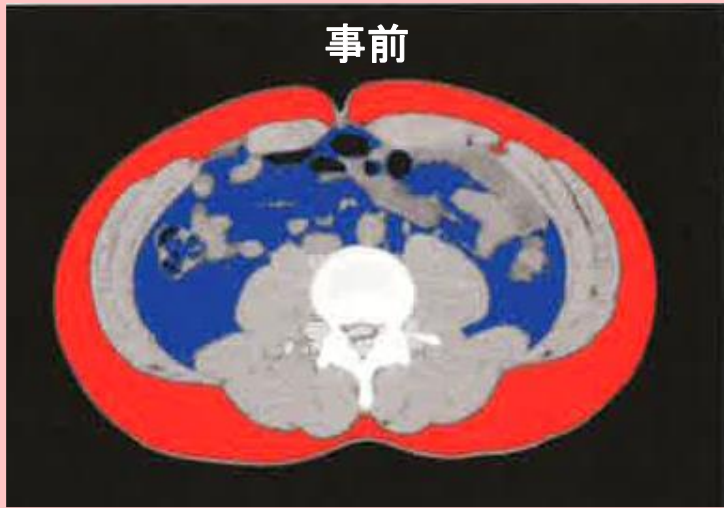
下腹部
-11cm

皮下脂肪 17%、内臓脂肪29%が減少

CT検査結果

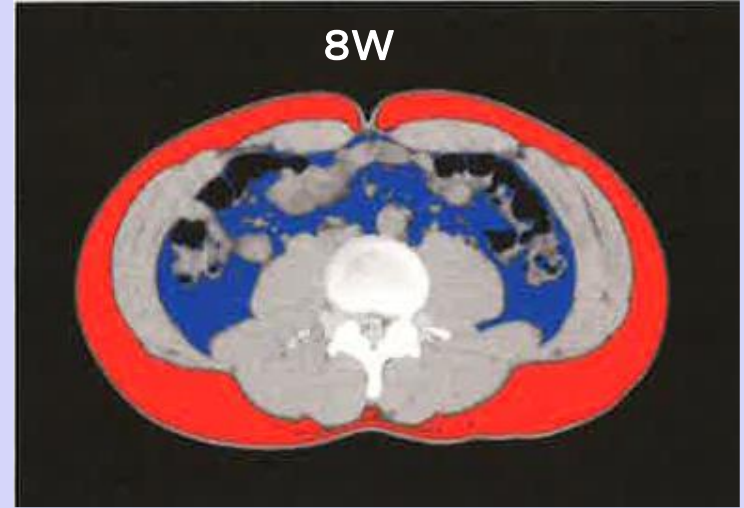
Before

事前



After

8W



2ヶ月で約2割も減ってます！！

皮下脂肪
面積

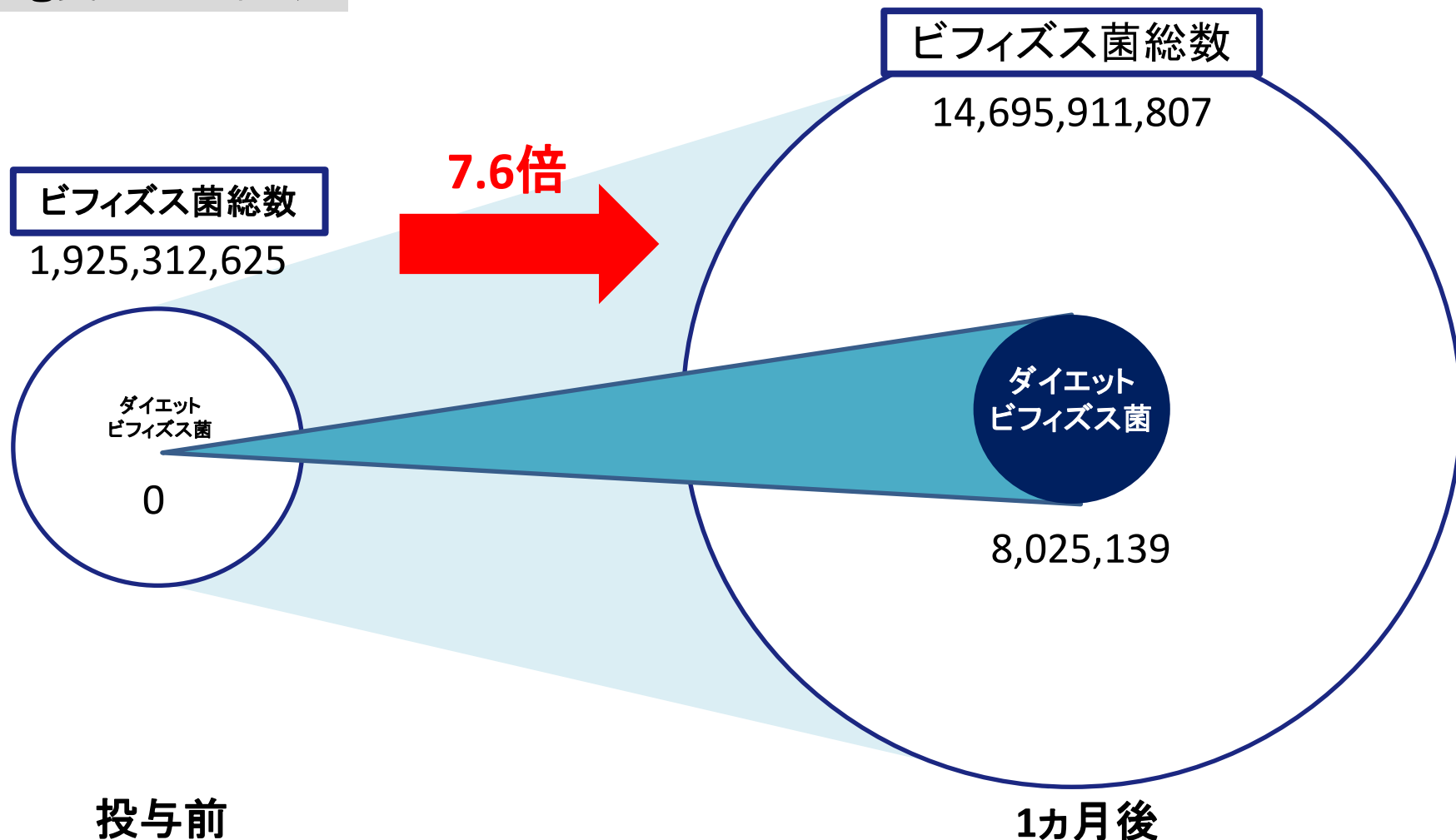
143.60 → 119.02 -17%

内臓脂肪
面積

84.70 → 60.18 -29%

善玉のビフィズス菌が7.6倍に増殖

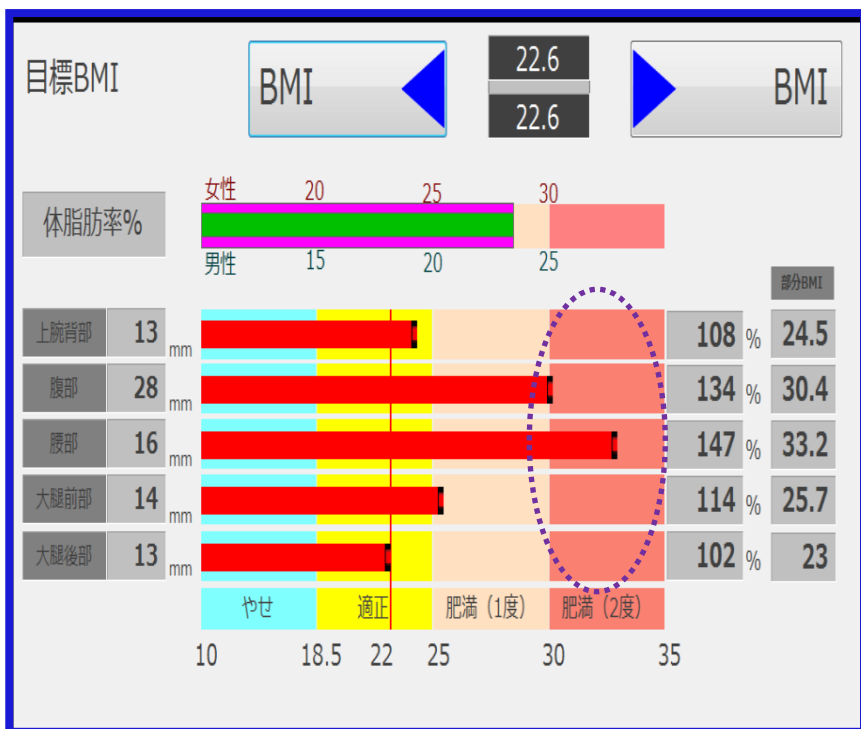
1g糞便中の菌数



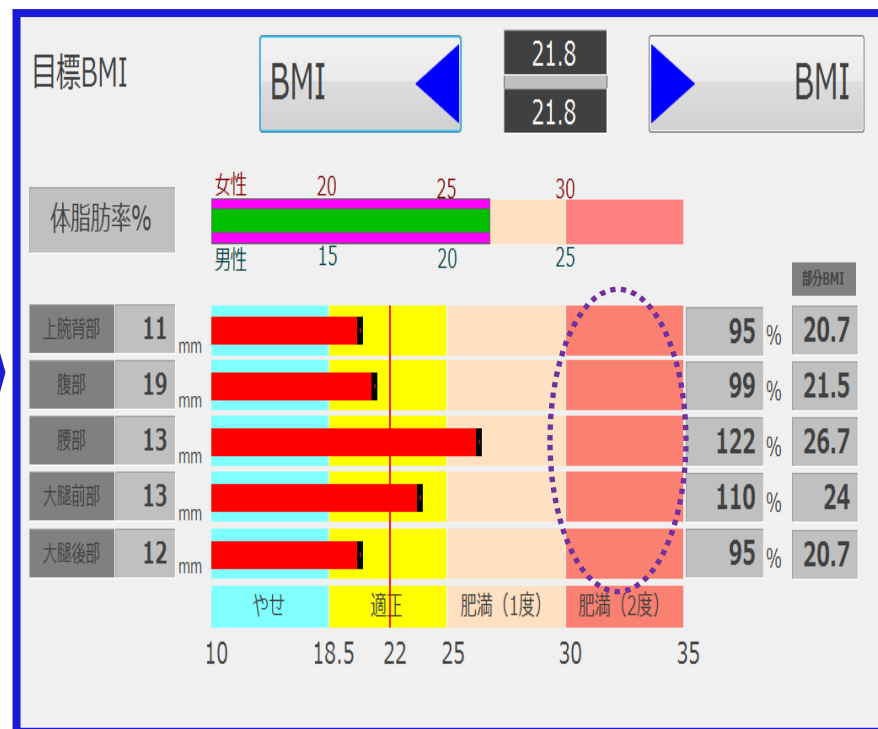
皮下脂肪がレッドゾーンから適正へ

エコー検査

<試験前>

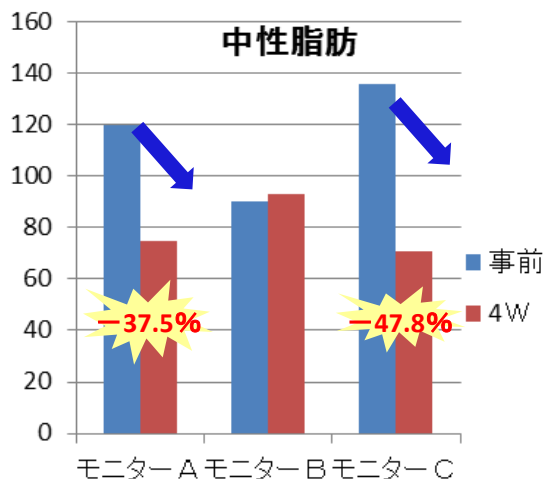


<4週後>

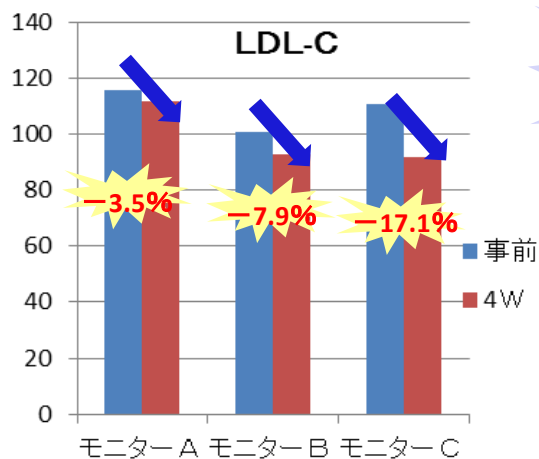


悪玉コレステロール、中性脂肪が減少

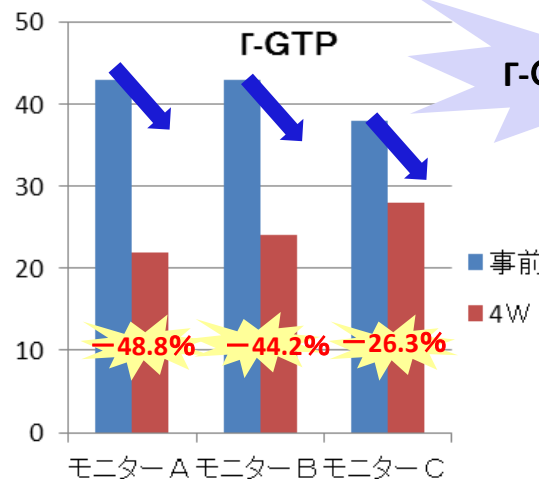
血液検査



※中性脂肪
血液中に増加してくると、
動脈硬化を進める一因になります。



※LDLコレステロール
動脈硬化を引き起こす
強力な危険因子。
「悪玉コレステロール」と
も呼ばれる。



※γ-GTP
(γグルタミルトランス
ペプチダーゼ)
肝臓の解毒作用に
関係している酵素

悪玉コレステロール、中性脂肪が減少

お客様から頂いたお写真です！

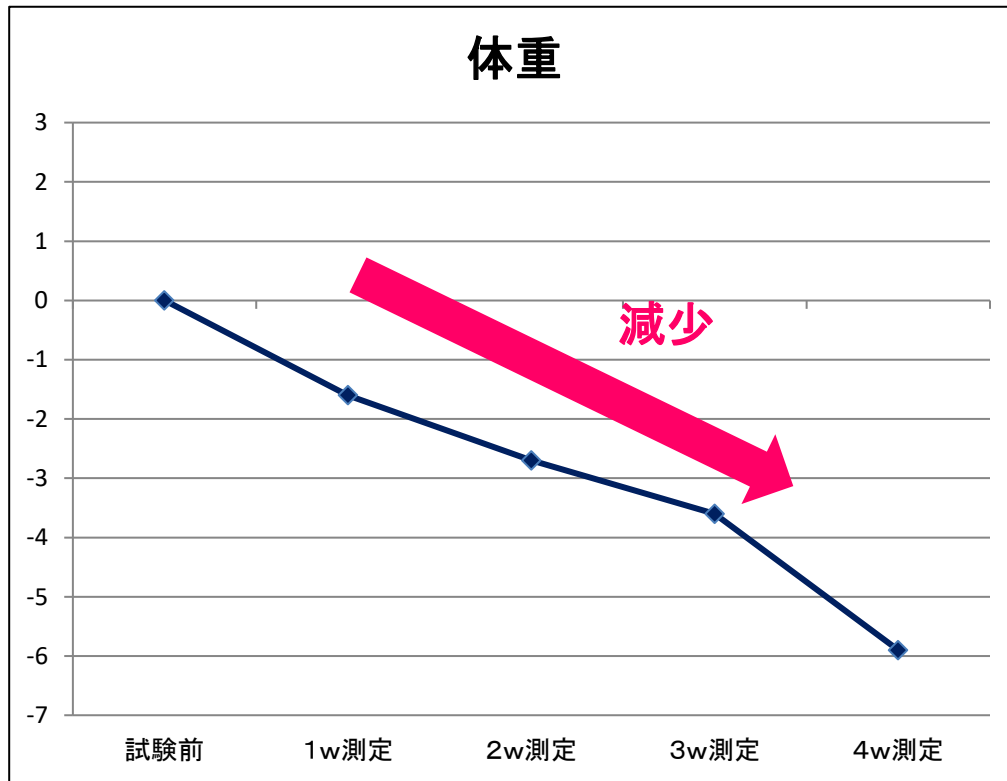
項目	2019年5月	2020年5月	2021年5月	参考値	単位
血糖					
HbA1c	5.4	5.9	5.9	73~109	mg/dl
食後時間	空腹	空腹	空腹	4.9~6.0	
判定	A	A	A		
総コレステロール				142~248	mg/dl
中性脂肪	54	94	73	30~117	mg/dl
HDLコレステロール	68	76	69	48~103	mg/dl
LDLコレステロール	149	190	164	65~163	mg/dl
non-HDLコレステロール				90~149	mg/dl
判定	A	F	D		
AST(GOT)	16	17	19	13~30	U/l
ALT(GPT)	15	14	18	7~23	U/l
γ-GTP	22	17	22	9~32	U/l
ALP				38~113	U/l
LDH				124~222	U/l
ZTT				20~120	U/l
総ビリルビン				0.2~1.2	mg/dl

2021年3月に飲み始め

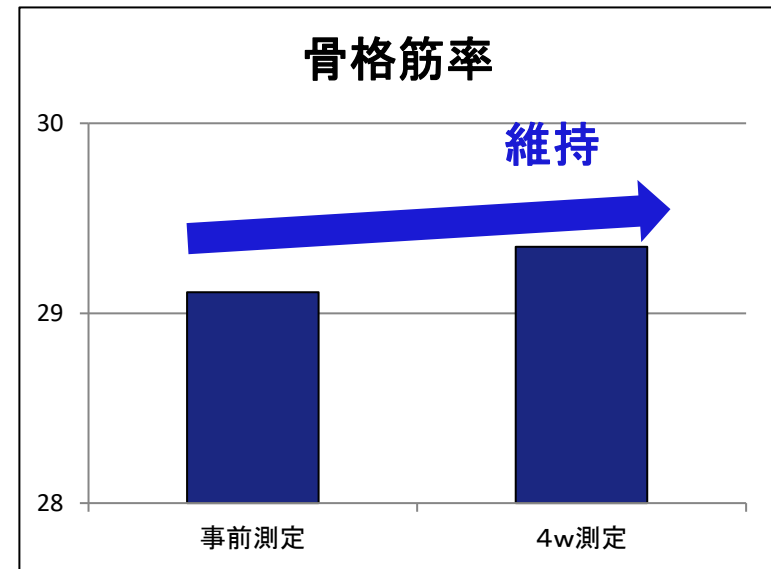
2019年5月 2020年5月 2021年5月

→ (Blue arrow from 94 to 73)
→ (Red arrow from 76 to 69)
→ (Red arrow from 190 to 164)

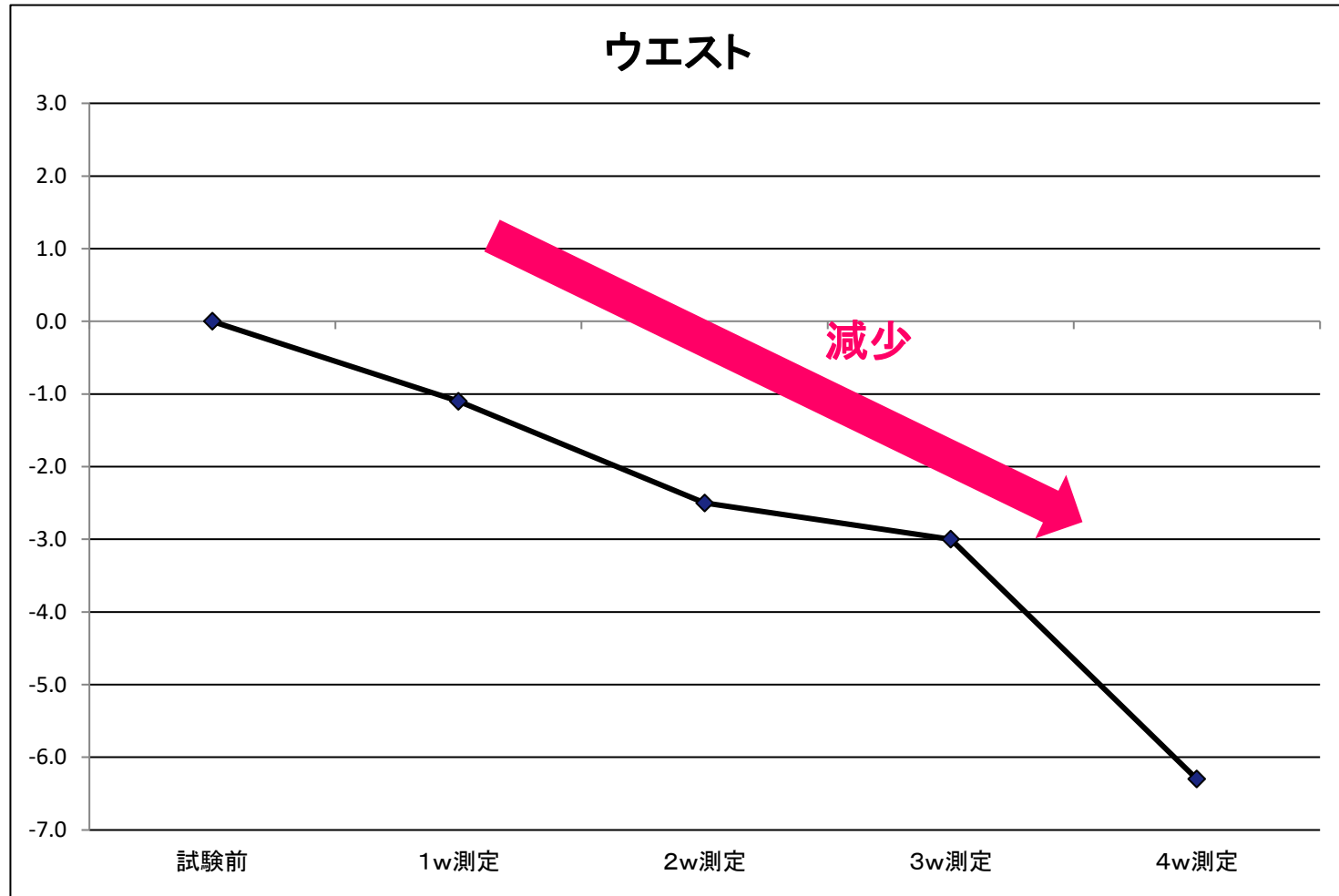
1ヶ月で筋肉は減らずに体重が最大-5.9kg減少



筋肉は減っていないのに
体重が減少！！



1ヶ月で気になるウエスト最大-6.5cm減少



1ヶ月でなかなか減らない下っ腹が最大-11.0cm減少！

